平成２９年度　部局自己評価報告書　（２４：附属図書館）

Ⅲ　部局別評価指標（取組分）

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限：(㉓)～(㉔)合わせて 7,000 字以内

(1)全学の第3期中期目標・中期計画への貢献又は里見ビジョンへの貢献とその社会的価値(㉓)

詳細は、次項㉔を参照

(2)〔前記㉓〕のほか東北大学グローバルビジョン(部局ビジョン)の　重点戦略・展開施策の達成状況又は部局の第3期中期目標・中期計画の達成状況とその社会的価値(㉔)

1　学術情報整備計画の促進＜部局ビジョンから＞

従来、図書館商議会で検討してきた本学の学術情報（電子ジャーナル・データベース等）整備計画の検討を継続するとともに、わが国の国公私立大学における学術情報の安定的・継続的確保と提供を目指す大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と連携・協力しつつ、ワールドクラスへの飛躍に相応しい研究環境の将来展望を検討する。(Vision 2：研究関連)

・学術情報整備計画を改定し（H28)、本学を含めた学術情報流通改善に大きく資するものとして、オープンアクセスに関する国際的な取り組みへの積極的な関与が可能となった。
・学術情報整備に係る検討効率を上げるため、財源に関する検討・報告の流れを切り離し（H28)、図書館商議会が資料選定に専念できる体制を整えた。

2　機関リポジトリによる教育・研究成果の発信＜部局ビジョンから＞

東北大学機関リポジトリ（ＴＯＵＲ）の整備・充実を図るとともに、2013 年度分から電子的公開が義務づけられた学位論文について網羅的収集を実施する。(Vision 2：研究、Vision 5：社学連携関連)

・東北大学機関リポジトリ（TOUR）では、紀要論文、学術論文及び学位論文等の学内の教育・研究成果を電子的に公開している。平成 28 年度は、約 2,493 件のコンテンツを公開し、登録総数は約 55,169 件となった。これにより本学の研究成果をより多く公表することができるようになった。学術論文とともに、インターネット公開が原則となった学位論文の登録促進のため、関係部署と連携を取りながら登録促進に努めている。
・独自サーバで提供してきた TOUR を、国立情報学研究所が管理するクラウドサーバへ切り替え、平成 29 年 3 月に、JAIRO Cloud 版 TOUR での公開を開始した。これにより、サーバ管理が省力化されると共により安定した稼働が可能となる。また、pdf ファイル表示の他に音

声・動画の再生も可能となり、利便性も向上した。

3　各図書館での学習環境の整備＜部局ビジョンから＞

附属図書館本館改修によるラーニング・コモンズ整備（2012～2014 年度）、青葉山新キャンパスにおける新図書館の整備（2014 年度～）に引き続き、医学分館・北青葉山分館・工学分館についても、主体的な学びと知的交流に最適な場への整備を図る。（Vision 1：教育関連、Vision 6：キャンパス関連）

・本館改修以後、グループ学習室、グローバル学習室、メインフロア等の団体利用など、アクティブ・ラーニングの場としてのニーズに対応した施設・設備及び利用規則の整備を行い（H28）、利用件数が前年度比 327 件増加して 5,195 件と学生の日常的な活用が定着している。
・留学生と日本人学生の知的交流の場として運用しているグローバル学習室では、留学生コンシェルジュ企画としてのグローバルセッション開催や関連部署との協働による展示、多読資料の継続的整備を行い（H27～H28）、学生の留学への意識を促し、国際社会に目を向ける場として活用されている。
・図書館機能として、学習環境や豊富な資料及び教養のための展示会や各種イベント等の提供により（H28）、総体的な学習支援の成果として、年間入館者数が前年度比 17,400 人増加して 71 万人を突破した。
・図書館カフェは、引き続き学生・留学生や教職員の知的交流の場として提供され（H27～H28）、さらに有効に活用されている。
・青葉山コモンズ新図書館が竣工し、開館に係る備品等の整備も完了した（H28）。その結果、知的交流の場の提供と農学分館の機能の強化、共有書庫の新設による本館及び各分館の収蔵能力を強化することができた。
・工学分館における AbeIujo（グループ学習用エリア・Language Studio）を整備し、円滑に運用した（H28）。その結果、知的交流の場を提供することができた。
・平成 21 年度から実施している学生用図書整備事業として、平成 28 年度は新刊の基本的学習図書約 17,000 冊を整備した。このほかに、高度教養教育・学生支援機構の教員と連携して従来から整備に力を入れてきた英語多読学習授業のためのテキストをさらに充実させるとともに、各専門分野のイントロダクションに相当する英語テキストシリーズを新たに選定し、学生が英語テキストを読みこなすための実践的な資料の整備に着手した。また、毎年恒例の学生選書企画も実施し、学生のニーズに沿った図書の整備を継続して行った。これらの取組により、学生の学習意欲を刺激し、主体的な学びを促す環境を作り出すことができた。

4　社会・地域への知の還元＜部局ビジョンから＞

図書館所蔵資料を最大限に活用した知を還元する活動（展示会・講演会の開催等）を実施するとともに、地域の観光資源となりうる常設的な展示会場の実現を図る。（Vision 5：社学連携関連）

・2 号館 4 階に貴重書閲覧室と専任の係を設置し、国宝や漱石文庫などの貴重書や狩野文庫などの準貴重図書を安全で良好な環境の下で管理・保存及び利活用可能な環境を整備し、古典籍コンシェルジュによる貴重資料の調査を開始した（H28）。これにより適正な利用環境が得られ、貴重資料等の利活用のための保存・管理においてより多くの人的支援が可能となった。
・平成 28 年 10 月には、夏目漱石没後 100 年による企画展「漱石文庫-文豪が遺した創作の背

景」を開催し、2650 名の来場者を得た。同時に漱石文庫の PR のため、漫画家香日ゆら氏にロゴの制作を依頼するとともに、市内青葉通り地下道ギャラリーにおいて、日本近代文学館、県立神奈川近代文学館、仙台文学館の協力を得、企画展の PR 展示を開催し好評を得た。

・企画展開催に合わせ、平成 28 年 10 月 20 日から 11 月 2 日の期間に 2 号館 4 階の狩野文庫・古典資料書庫の特別見学ツアーを開催し、学内外から約 100 名の参加者を得、貴重な資料を後世に継承することの重要性を PR した。

・貴重な資料の公開や研究活動へ適切な状態で資料を提供するために、平成 29 年度内に修復が必要な資料について、高額な修復費用を確保するため、朝日新聞文化財団や東日本鉄道文化財団等から外部資金を獲得した。

・平成 29 年 1 月には、朝日新聞文化財団の助成により修復した貴重書の秋田家史料について、新春特別展「大名家の歴史と美意識」を開催し、同時に通常は公開が難しい徳川三代に関する古文書等も展示し、好評を得た。

・平成 28 年 5 月には、日欧フレンドシップウイークイベントとして、「EU と宇宙」と題したパネル展、講演会等を開催し、EU 情報センターとしての PR を行い、学内外からの多くの観覧者を得た。さらに、平成 29 年 1 月には、外務省認定事業として「日本の国連加盟 60 周年記念事業」のパネル展と講演会を外務省後援の下に開催し、国連寄託図書館であることを PR するなど、国際的な役割を果たした。

・本館及び全国各地で開催された、夏目漱石没後 100 年の記念展示会に合わせ、展示会を実施した各文学館等と連携し、当館の「漱石文庫」をモチーフとしたグッズを販売した。また、地元老舗菓子店と漱石文庫をモチーフにした「漱石羊羹」の製作・販売の共同企画を行った。さらに同店と協力して河北新報広告欄で漱石コラム掲載の共同企画を行っている。（４回掲載し継続中）。

5　東日本大震災記録の継承＜部局ビジョンから＞

永く後世に東日本大震災の記録を継承するために、震災ライブラリーによる資料の収集・保存・公開活動を継続する。(Vision 3：震災復興、Vision 5 社学連携関連)

・震災の記録を後世に引き継ぐとともに、震災の経験を学習・研究を通して社会に活かすために、「震災ライブラリー」として収集しており、公開している資料は、平成 29 年 3 月末日現在約 5,200 冊に達している。このアーカイブ活動は、被災地の大学図書館、県立図書館及び国立国会図書館などとも情報交換を行いながら、連携・協力して実施している（図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」の中心的役割を果たしている)。